



玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 TEL&FAX 0467-45-7411
http://www48.tok2.com/home/tamanawajyo

1512年8月13日北条早雲公は鶴岡八幡宮に参詣し荒れ果てた古都鎌倉の再建を誓って「枯るる木にまた花の木を植え添えてもとの都になしこそみめ」と詠いました。
その後、小田原北条一族と玉縄北条が総力を挙げて鎌倉のまちの再興のために尽くします。そして同年10月、玉縄城築城という「未曾有の大土木工事」が開始されました。



西ヶ谷恭弘氏・伊藤一美氏・大竹正芳氏によるセミナー



四代玉縄城主北条氏繁が築いた逆井城物見櫓(復原)



新たに作られた玉縄城域模型(玉縄ふるさと館)

武家の古都を守った 北条早雲公と玉縄

西ヶ谷恭弘日本城郭史学会代表の報告によると、玉縄

小田原で北条五代観光推進協議会が結成され9月23日鎌倉市が加盟しました。発会式で鎌倉市長は世界遺産登録をめざす古都鎌倉にあるもう一つの後北条の魅力を生かすまちづくりを進めることを宣言しました。玉縄城址まちづくり会議からも理事7名が招待され記念シンポジウムに参加、協議会加盟市町(8市2町)との連携を支援することを確認しました。玉縄城築城500年祭への舞台が着々と整っています。

戦国時代の鎌倉を守り支えた家の古都として江戸から現代につないだのは玉縄北条です。
**玉縄城の奥深さ
アカデミアで発見**
10月1日、清泉女学院の協力、日本城郭史学会、鎌倉世界遺産登録推進協議会との共催による玉縄歴史アカデミアが開催されました。定員の160名を超す熱心な参加者を迎え、城址遺構を見学、セミナーでは玉縄城の建造物等の徹底研究が行われました。

玉縄ふるさと館の 活用ひろがる

玉縄の歴史観光の拠点として、玉縄ふるさと館の活用が広がっています。8月には市長を招いて玉縄城域模型の披露式を行いました。古民家では寺子屋お話し会、玉縄ガイド勉強会も開催され、また総合学習の一環として小学生の見

快元僧都記を読み解く

鶴岡八幡宮の供僧であった快元僧都が記した『快元僧都記』が明らかにする玉縄城の史実について、伊藤一美先生の連続講座が始まります。どうぞ皆様ご参加ください。(詳細は4面参照)

古都鎌倉を支えた玉縄北条 北条五代シンポジウムに参加

戦国時代の鎌倉を守り支えた家の古都として江戸から現代につないだのは玉縄北条です。

「玉縄城址まちづくり会議」の活動 2011年(平成23年)4月～10月

- <玉縄城址公園化事業>
- ・市道デザイン協議10月工事実施
- ・月例アダプト七曲坂の美化整備
- ・太鼓櫓址「市民緑地」へ市と協力

- <玉縄ふるさと館事業>
- ・多くの団体見学者に対応
- ・体験学習協力 西鎌倉小3年生
- ・寺子屋お話し会、「玉縄朗読会」
- ・毎月女性会員による古民家清掃

- <アカデミア文化事業>
- ・連続セミナー第9回「城址南面の発掘成果」 齋木秀雄氏
- 「縄張り調査報告」大竹正芳氏
- シンポ「谷戸毎の屋敷と家臣団」 齋木秀雄氏、大竹正芳氏、伊藤一美氏

- 第10回「小田原合戦の意義」 伊東 潤氏(時代小説家)
- 対談「六代城主北条氏勝の時代感覚」伊東潤氏VS伊藤一美氏
- 第11回玉縄城址で「玉縄城遺構見学会」と講演会「城郭史上からみた玉縄城」
- 西ヶ谷恭弘氏(日本城郭史学会代表)
- 報告と対談「玉縄城縄張り測量」
- シンボルづくり
- 玉縄城域模型の制作、市長披露
- ・学習センター郷土資料コーナー
- 城址東側発掘写真と「玉縄のかわらけ」展

- <玉縄城築城500年祭>
- ・キャラクターの開発、「玉竜くん」「タマちゃん」「タマナワくん」商品化、イベントでの販売を進める
- ・玉縄城を偲ぶコース企画のつめ

- <企画広報担当事業>
- ・市との協働事業推進を継続
- ・鎌倉市との玉縄ふるさと館の活用に関する覚書に調印
- ・玉縄城ガイド勉強会を進める
- ・広報紙「玉縄城 まちだより」8号
- ・北条五代シンポジウム参加(小田原市の招待に7名参加)ネットワーク協力を開始
- ・「三浦半島だより」に玉縄ふるさと館の紹介文掲載
- ・「かながわ再発見!インビテーションブック」に、イベント案内掲載
- ・ケーブルTV「散策の楽しみ」で玉縄紹介



茅葺のおんまや(河原家) 昭和32年(1957年)頃撮影



昭和28年(1953年)12月のお餅つき

玉縄思い出写真館

おんまやさんでお正月の餅つき
【ひと言】
城宿の年中行事の一つが、ご近所が一つ白で行うお正月の餅つきでした。皆が集まって本当に楽しめました。
豊田富美子さん

- 問もなく完成 「歴史の道 七曲坂」
- 市民の大切な道です。草取り・落ち葉掃きにご参加ください。道具は用意してあります。いい汗をかきましょう!
- 鎌倉アダプト・プログラム
- 毎月第1土曜日
- 9:00～11:00
- 第23回玉縄学習センターフェスティバル
- 11月19日～21日
- 活動展示と玉縄検定クイズ
- 【予告】
- 玉縄歴史アカデミア
- 待望の歴史講座開講!
- 「快元僧都記」を読み解く
- 講師・・伊藤一美氏
- 2012年(平成二十四年)1月～2月予定
- 玉縄学習センター

- 総会のお知らせ
- 2012年(平成二十四年)4月14日(土曜日)の予定
- お問合せは
- 玉縄城址まちづくり会議
- 企画広報 荒井
- 電話0467-457411
- 会費納入のお願い
- 2011年4月～2012年3月(平成二十三年度分)年会費1,200円
- 口座名
- 玉縄城址まちづくり会議
- ゆうちょ お振込みは
- 002507114824
- 郵便局口座お持ちの方
- 10220214463751
- みずほ銀行 大船支店
- (373) 普 2441785
- ※住所・氏名・電話番号をお忘れなく!



私が教職に就いたのは、昭和五十年四月です。「玉縄城まちだより」の創刊号に投稿された熊代教育長のコラムによると、昭和三十年後半、玉縄小学校の周辺は田んぼだったようです。

私が勤務し始めた昭和五十年代は、戸建てやマンション建設が進み、地域の人口が急増しました。当時の朝会風景の写真をご覧ください。ご覧のように子どもたちがかなりいました。一学年の学級数が八学級や九学級という時代でした。



昭和五十年代の玉縄っ子から時折届くEメールを、目を細めて読んでいます。(鎌倉市立関谷小学校長)

当時は、プレハブ校舎を校庭に建設して対応しました。そして、昭和五十四年四月に関谷小学校は、玉縄小学校から分離開校しました。私も玉縄小学校から七百五十人くらいの子どもや勤務していた教職員とともに関谷小学校へ異動しました。そして、現在再び関谷小学校で勤務しています。私にとって最初に勤務した玉縄小学校と、そこから分離開校した関谷小学校が、教員人生の原点となっています。

私が玉縄小学校を卒業させた子ども達は、今では四十代半ばとなり、玉縄地域だけでなく、国内外で活躍しています。

昭和五十年代の玉縄っ子から時折届くEメールを、目を細めて読んでいます。(鎌倉市立関谷小学校長)

昭和五十年代の玉縄

桑 岩男

汗かき・知恵出し・声援で「玉縄城址まちづくり会議」に参加しませんか。お問い合わせはお近くの会員まで

インタビュー～玉縄万華鏡～

鎌倉市景観重要建築物
平井家住宅・長屋門の歴史
平井 潔さん
(ひらい きよしさん・城廻)

私が子どものころ、おばあさんが「この家は私の何代も前から建っていたんだよ」とよく話してくれました。大黒柱は一尺五寸もあり、天井の梁も太いもので、六間取りの大きな家です。

農家として、たくさん使用人の兄やんや、姉やんがいて賑やかでした。昔、主屋はもつと東側にありました。昭和三十二年に移築して茅葺から瓦葺にし、縁側もコの字につけたりしてだんだん暮らしやすいようになっています。



長屋門は明治20年頃に建て、中階ではお蚕を飼い、農家の大事な場所でした。東京オリンピック前に長屋門も瓦への葺き替えを、建てた時と同じ大工さんに頼みました。(インタビュー)

熊代教育長に伺ったお話

昭和38年頃、玉縄小学校で教職にあつたので、平井さんの家には家庭訪問でよく行きました。元気のある明るいお子さんで、お母様ともよくお話ししました。その頃、長屋門の屋根葺き替えてその昔を物語る貴重な品々が出てきたと伺ったことがあります。当時はまだ時間がゆつたりと流れる空間がそこにはありましたね。玉縄は玉縄城の城山を中心に一つに纏まった感じのする町でした。関谷地域の子どもは玉縄小学校まで20～30分もかけて、七曲りをとおって通って来ました。想い出と一緒に皆の顔が浮かびます。

注 鎌倉市のデータより

主屋は19世紀半ばに竣工。平井家は昭和初期までは関谷に属し今は城廻となっている当地の、かつては「オモテ」という屋号で呼ばれていた旧家です。

長屋門は梁間3間、桁行10間、総高が8メートルと、鎌倉にある農家の中で最大規模の建築物です。



昭和50年代の平井家長屋門 (鎌倉中央図書館より借用)

改築の時に出た古文書の中には、東海道藤沢宿「助郷会所日記」があり、1831年頃の藤沢宿の様子がわかる資料として市民の手で解読されました。玉縄図書館にもあります。

知ってる？
玉縄城築城500年祭は2012年11月です!!



玉縄城築城500年祭のキャラクター

玉縄城築城500年祭のみどころ その一
玉縄城を偲ぶコース

玉縄城三代の菩提寺「龍寶寺」シャクヤク、桜の美しいお寺です。山門入ってすぐ右手には「玉縄ふるさと館」があります。歴史資料館には「玉縄城の模型」と歴史資料、地域で使われていた農具、民具が展示され、小中学校の総合学習、学習観光の場として活用されています。

隣接の国指定重要文化財「旧石井家住宅」では、昔の暮らしを体感でき、寺子屋お話し会や歴史講座、音楽会も開催します。

歴史資料館、古民家併せて入館料 大人200円、子ども100円
お問合せ・団体見学申し込みは 玉縄城址まちづくり会議 まで
☎・Fax 0467-457411



七曲坂の緑に紅色が眩しい。

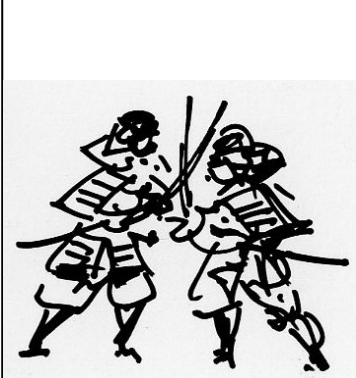
歴史シリーズ 9 玉縄城主 北条氏勝

玉縄城無血開城のいきさつの続き

鎌倉市岩瀬の大長寺に伝わる「亀鏡山護国院大長寺由緒書御調文書」によると、大頂寺(現在の大長寺)四世住職の源栄上人は、大頂寺と同じく玉縄城三代城主北条綱成開基の玉縄山居にある大応寺の住僧良達(了達)上人と図り、北条氏勝に玉縄城の不戦開城を説得し、氏勝は徳川家康の要請を受け入れることとなった。

氏勝は、天正十八年(1590)四月二十一日、源栄上人と良達上人に伴われ、小田原・酒匂口の家康陣所に行き、開城の旨を伝え、家康の仲介で豊臣秀吉本陣(石垣山城)に伺候した。四月二十八日、六代七十八年間続いた玉縄城は無血開城し、氏勝は薙髪(ちはつ)して恭順を誓った。これによって秀吉より助命され、家康の配下に属することになった。翌五月三日、玉縄城は家康の家臣水野織部正忠守の預かりとなる。

氏勝は昨日までの味方・北条方の武蔵方面に点在する支城攻略に参陣することになる。氏勝三十二歳の再出発である。



六月一日、石田三成を将とする軍勢が、武蔵の忍城(おしじょう・埼玉県行田市)攻略に着陣。氏勝も昨日までの宿敵大谷吉継・佐竹義宣・長東正家・宇都宮国綱・真田昌幸らの武蔵・上総・下総衆約二万三千人の攻め手の中に、忍城大宮口に参陣した。一方、忍城側は城主・成田氏長が小田原城に籠城しており、氏長の叔父成田泰季(やすすえ)を城代として、四千人弱の守兵であった。

小田原城は七月六日に開城し、同月十三日に秀吉は小田原城に入った。その時期に家康に関東移封(江戸)を伝えている。

氏勝が参陣している忍城は、小田原開城後の七月十六日に開城した。同月十八日、家康は江戸に入り、氏勝も共に江戸入りした。(以下次号に続く)